

写真展「モンゴルのシャマニズムとハンター」開催

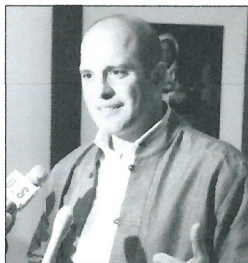


遊牧民の文化、習慣、シャマニズムの現在を撮影した「モンゴルのシャマニズムとハンター」が10月21日から11月4日までハーン銀行ギャラリーで開催中である。カメラマンのハミド・サルダル・アプカミ氏が2000年以降モンゴル国で撮影した写真である。同氏はハーバード大学チベット語モンゴル語の研究で博士・教授になり、1980年代後半、ネパール、チベット、ヒマラヤについて10年間研究した後、2000年から遊牧民の生活習慣が都会生活に変わるまでの写真を撮るためモンゴル国に来るようになった。同氏は2004年「ツァータン族」、2006年「バラバン：アルタイ山脈の翼」、2008年「トナカイの跡」などのドキュメンタリーを制作し、カナダ、アメ

リカ、フランスの映画祭で特別賞を受賞している。遊牧民独自の文化、またそれをいかに守っているかについて長編小説も執筆した。

サルダル氏のコメント：

私は時に都会の定住生活や文化から完全に離れることがありましたが、その度にモンゴルの手つかずの自然にいつそう惹かれるようになっていきました。このように惹かれる度に自然において人と動物の間に何か不思議な共鳴するものがあることをそう感じるようになっていました。例えば、ゴビ地方で遊牧民の占老が馬頭琴を弾いて雌ラクダの心を動かし、みなし子ラクダにまるで自らの子のようにおっぱいをやっていたのを見たことがあります。またボリヤド（ブリヤート）・モンゴ



ル人の僧侶が古くから伝える声を出して玄関先までオオカミを呼びこんだのも見ました。さらに西部アルタイ山脈の麓でカザフ遊牧民といっしょに馬に乗って驚のヒナを巣から取って狩りの訓練を行うのも見たのです。このように人と自然・動物間のエコロジーの魔法のような繋がり私の作品を導いてくれる主要なテーマになっています。

天気予報



30日一部の地方で、31日東部県南側に雪が降る。風速はゴビ地域で秒速16～18^{km/h}、時に24^{km/h}に達する強風が吹き、砂嵐や吹雪になる。アルタイ、ハンガイ、フブスグル、ヘンティなどの山岳地域では夜間-16～-21度、日中-8～-13度、ゴビ地域では夜間-5～-10度、日中-1～4度、その他の地域では夜間-12～-17度、日中-3～-8度の予想である。今月下旬はほとんどの地域で強風によって寒くなる。

今週の用語

外交関係を経済に連携させる
雇用促進（じようそくしん）
自国の優位性（じこくのゆういせい）
集約的牧畜（しゅうやくてきぼくちく）
税金を免除する（ぜいきんをめんじよする）
先進技術（せんしんぎじゅつ）
第三の隣国（だいにさんのりんごく）
ネパール（Nepal）
見返り資金（みかえりしきん）

гадаад харилцааг эдийн засагжуулах
ажлын байрны нэмэгдүүлэх
манай улсын давуу тал
эрчимжсэн мал аж ахуй
татвар тэглэх
дэвшилтэт техник, технологи
гуравдагч хөрш орон
Балба улс
хуримтлалын сан

フタコブラクダ
（二瘤駱駝）の世界

日本人のロマンをかき立てる「月の砂漠」には、モンゴルの大柄のラクダは似合わないかも知れません。それにモンゴルのラクダはフタコブですから、イメージが少し違います。

近年モンゴル国では、冬から春にかけてラクダがらみのイベントが毎年開催されるようになりました。これは年々減り続けるラクダの復活をかけて、21世紀に入ってから政府主導で実施しているものです。冬には「ラクダ・ボロ大会」、春にはウムヌゴビ県ボルガン郡で「ラクダ祭り」（今年は3/3～3/5）が開催されるようになりました。

モンゴルのラクダは、1945年当時89万5千頭を数えましたが、その後、減少を続けました。この数年間を見ても、25万6600（2004）、25万4200（2005）、25万3500（2006）と減り続けてきました。ところが、2007年に26万0600、08年には26万1800と数年ぶりに増加に転じています。モンゴル国には現在、五畜（ヤギ、ヒツジ、ウシ、ウマ、ラクダ）が合計で4200万頭おり、ラクダは家畜全体の1%にも満たないのですが、世界のフタコブラクダの50%を占めています。ちなみに、ゴビ砂漠の一角を占める中国・内モンゴルのラクダ頭数は8万頭に過ぎません。

ラクダ肉は伝統医学でいう「セルーン（涼性）」で体を冷やすと言われ、とりわけお年寄りが食べると、頻尿になったり体が弱ったりとあまり好まれません。その一方で、ラクダのミルクは、病気の予防・治療に幅広く用いられてきました。例えば、体力を養い、筋骨を強化する、肺を強くする、結核の治療・予防、水腫、肛門ポリープなどに効果があるそうです。またラクダ乳をアルコール発酵させた「ホールモグ」は壊血病の治療、害虫・サソリ・蛇に噛まれた時に患部に塗ったり飲んだりすると良いということです。暖めて飲むとストレス解消にも効果があるといえます。ストレス社会で生き続ける日本人にも効くのでしょうか。

その他、ラクダの体の部位は様々な病気の治療に用いられてきました。柔毛は目の疲れ、剛毛は止血剤、骨は痔や火傷、コブは膝痛に効果があります。また尿は蛇に噛まれた傷や眼病に、糞は痛風や関節の腫れ、難聴、歯茎の腫れ、かゆみに効果があるそうです。さらに交尾期の種ラクダ（これはモンゴルにいる家畜の中で最も危険だと言われる）のうなじから出る分泌物は、蛇に噛まれた傷や喘息や婦人病に用いられるだけでなく、免疫力を向上させる効果があるとかで、ある研究者が独自に研究を続けています。

（内田敦之）

モンゴル銀行の為替レート（2009年10月30）

	円	15.65
	米ドル	1427.1
	ユーロ	2115.96
	ルーブル	48.91
	元	209.01
	ウォン	1.02